

# DEBUT 首長

水戸市長 高橋 靖氏

## 震災復興が大テーマに 部局の垣根払い活性策検討

**水戸市** 水戸徳川家の城下町として栄え、2009年に市制120周年を迎えた。東日本大震災では弘道館、偕楽園が大きく損壊するなどの被害を受けた。人口26万9千人。

### ——就任から半年の手応えは？

東日本大震災後に就任だったので、目の前にやるべきことが山積していた。まったく休みのない状態で走り続けていて、それにやりがいを感じている。とりあえず予算化して執行しなければならぬ復旧・復興事業に関しては、ほぼ道をつけた。後は計画にのっとって各部局で進めていければいい。

問題なのは、むしろ目に見えない被害の方だ。観光面を中心にした経済の落ち込みがその一つ。経済復興は大きなテーマだ。復興のシンボルにできないかと考え、夏最大のイベントである黄門まつりでは、初のテレビCMをつくって流すなど大がかりなキャンペーンを実施し、PRに努めた。さらに、農業の風評被害も大きな産出額を持つ

水戸市にとって大きな問題だ。黄門まつりと同時に農産物の販促キャンペーンも実施した。

### ——公約として掲げた「みと安心プラン」の具体化は？

街の活性化にしても経済浮揚にしても、大前提となるのが安心だ。実際、東日本大震災を経験したことで足りないものが何か、しっかり反省できた。例えば、備蓄品は集中備蓄態勢だったために、被災者に効率的に届けることができなかった。そのため今では分散備蓄態勢を整えている。もう一つ明らかに足りなかったのが情報。こちらの方は移動式防災無線配備を予算化し、すべての市民センターに設置することにした。

防災面だけでなく福祉や医療、教育などでも、市民が感じている不安を払拭し、衆知を集めて安全・安心を感じてもらえる快適なまちづくりをしていきたい。

### ——中心市街地活性化への取り組みは？

街を元気に明るくしたい。そのためには、市内の部局ごとの垣根を取り払う必要があると感



たかはし・やすし 1965年生まれ。88年日大卒。衆院議員秘書を経て95年水戸市議。市議在任中の03年、明治大学大学院政治経済学研究科修士課程修了。05年茨城県議。11年5月に初当選。

じた。市役所には市街地整備課があれば商工課もあり、観光課もある。さらに、世界に通じる芸術発信をしている水戸芸術館も市の組織の一つだ。中心市街地活性化は、どこかの部署だけでどうこうなるものではない。横串を通してそれぞれが持っているアイデアをぶつけ合うことで大きな力を発揮できるのではないかと考えている。芸術家によるデザインを施したアートの運行などの事業は垣根を取り払った成果だ。

水戸市には高校生、専門学校生、大学生が1万人以上いる。彼らを街なかに呼び込めれば、にぎわいも出て消費にも活気が出る。各部局の力を集結し、若い人から高齢者まで市民との協働が進めば、安心・安全を土台にしたにぎわいあるまちづくりができるはずだ。水戸にある伝統的な教育の力や、様々な文化資源の力も組み合わせ、課題に取り組んでいきたい。

(聞き手は

水戸支局長 水柿 武志)